

平成12年度 岳南排水路管理組合会計 歳入歳出決算 議会承認される

平成13年10月17日開催 =管理組合議会定例会=

第 5 号
編集・発行
岳南排水路管理組合
富士市今泉654番地の1
☎ (0545) 51-2623
FAX(0545) 51-2676

岳南排水路管理組合議会定例会（渡辺勝議長）が平成十三年十月十七日（水）午前十時から管理組合事務所二階の会議室を議場として平成十二年度歳入歳出決算と平成十三年度補正予算を審議し、いずれも可決されました。

十二年度の決算状況は、歳入八億一千五百七十八万円余、歳出七億六千九百二十七万円余で差引残額は四千六百五十一万円余となりました。また、十三年度予算の今回補正額は一千八百九十六万八千円で補正後の予算額は八億二千四百七十九万八千円となりました。

このうち、決算内容歳入については主な財源である使用料が七億三千九百四万円余となり、総収入額に占める割合は九〇・四パーセント、前年对比では〇・六パーセントの減少となりました。また、歳出においては管理組合の使命である施設の維持、改良事業に三億五千八百八万円余、歳出総額の四六・五パーセントを支出いたしました。このほか今後の自然災害や大規模改良事業等に備えて、岳南排水路基金として積立を行っていました。この積立額は現在、二億二千四十一万円余となつていていますが、当面の目標額として三十億円の積み立てを予定しています。

岳南排水路の使用工場は現行の使用料金が設定され、平成三年度以来、十年を経過いたしましたが、この間に使用工場数は統合も含めて十七工場減少し、百七工場となっています。こ



議会風景（管理者の挨拶）

の減少により管理組合で増量許可の可能な排水量即ち留保排水量が日量換算で十萬四千立方メートル余となりました。

このように留保排水量が増加することによって、基本料金の減収につながり、岳南排水路管理組合の財政に影響を及ぼすことにもなります。決算審査意見としても指摘事項となつておる議会からも同様な指摘がなされております。

しかし、現在の各管路毎の管渠流下（排水）能力や增量を希望する工場の位置する管路の増量許可の可能量がないなどの問題があります。

管理組合では使用企業の増量希望や将来計画にも配慮した再配分計画とするため、アンケート調査を実施し、その結果を参考にして具体的な検討作業に入る予定であります。

なお、補正予算是十二年度決算が承認されたことにより決算残額の十三年度への繰越措置が主な内容となつています。

平成十二年度に執行した委託及び工事の事業のうち委託は全体で三十九件、二千七百万円余を執行しました。内訳としては夏の点検期間中に実施した管渠内の調査、管渠の清掃など「管内点検清掃関係」が三件、ゲートの点検整備、新設排水路の設計業務、下水道台帳の管理システムに係る保守管理、管路施設用地取得のための測量業務など「施設等保守関係」が十一件、「水質管理関係」が六件。「施設保守管理関係」では三十件、二千六百九十七万九千円を執行し、その他、庁舎管理、事務管理などに九件、六四万七千元を執行しました。

また、工事については、全体で四十件、三億二千二百万円余を執行しました。このうち、「施設改良関係」では十三件、一億九千万円余で、その内訳は岳南一号から三号排水路において一

CP工法などによる管渠の更生工事五件、富士市久沢地先の岳南一号において工事実施し、その内訳としてマンホールの蓋の付替えなど人孔整備工事八件、マンホール内の昇降用の足掛け金物付替工事二件、その他管路施設用地内の用地整備工事など十三件を施工いたしました。「ポンプ場関係」では、沈砂池ゲートの扉の付替えが一件、操作盤など電気設備の改良工事三件、併せて四件について一千四百万円余を執行しました。

平成十三年度四月の
富士市定期人事異動に
より、前局長の小山義
則氏が富士市役所・水
道部に帰任し、新しく
同下水道部から井上謙
人氏が新局長として着
任いたしました。

新しく
井上局長着任

平成十二年度
委託・工事の事業報告

◇ 岳南排水路運営委員会委員（任期：平成14年10月22日まで）

委員長		所 屬	役 職	氏 名
岳南排水路使用者	大昭和製紙(株)本社工場	工場長	遠藤 宏一	
副委員長	丸富製紙(株)	社 長	佐野 廣彦	
〃	高尾製紙(株)本社工場	常 務	平林 幸行	
委員	丸金製紙(株)	社 長	鈴木 基之	
〃	高崎三興(株)富士工場	工場長	白澤 紳児	
〃	三幸製紙(株)	社 長	臼井洋一郎	
〃	(株)興人化学紙事業部富士工場	工場長	国吉 和弥	
〃	三島製紙(株)原田工場	工場長	宮坂 戒	
〃	王子製紙(株)富士工場	工場長	山本 秀樹	
〃	知識経験者	専務理事	荻野 覚	
〃	富士商工会議所	専務理事	加茂 恒雄	
〃	富士宮商工会議所	部 長	長橋 克郎	
〃	富士市下水道部	部 長	望月 健一	
〃	富士市工商農林部	部 長	高野 竜	
〃	富士宮市水道部	部 長	高野 竜	

13年度管内 点検結果報告

管内状況は概ね異常なし

を除き、全て予定期間内で無事完了しました。



TVカメラ管内走行状況

運営委員会開催

平成14年度 夏季工場排水流入禁止 期間決定

11月6日(火)午後1時30分から管理組合会議室において、岳南排水路運営委員会が開催され、次の事項について審議しました。

1 報告事項

- 1) 平成12年度事業報告について
 - 2) 排水量及び使用料実績について
 - 3) 平成13年度夏季管内点検結果について

2 案議事項

平成14年度夏季工場排水流入禁止 期間について

平成14年7月28日(日)午前5時から
平成14年8月 1日(木)午後5時まで
△流入禁止日程の取り扱いについて

各路線ごとの工事、点検及び各種調査に必要な日数

以上の案件について、審議の結果、原案どおり答申されました。

平成十三年度岳南排水路夏季管内点検は、平成十三年七月一十九日（日）から平成十三年八月二日（木）までの五日間の期間中に調査点検など三十件の諸作業を行いました。

テレビカメラによる管内点検調査では、浸入水、破損、クラック、たるみ、土砂の堆積、木根の管内侵入等について調査し、一、〇〇〇ミリメートル以下の排水管は、テレビカメラにより早急に補修を要するものが八箇所確認されました。

以上、管内点検調査では、管
継ぎ手部よりの浸入水、管のク
ラック、人孔足掛け金物の腐食
欠損が確認されているため、事
業計画を見直しし、緊急性のあ
るものより順次補修していく必
要があります。

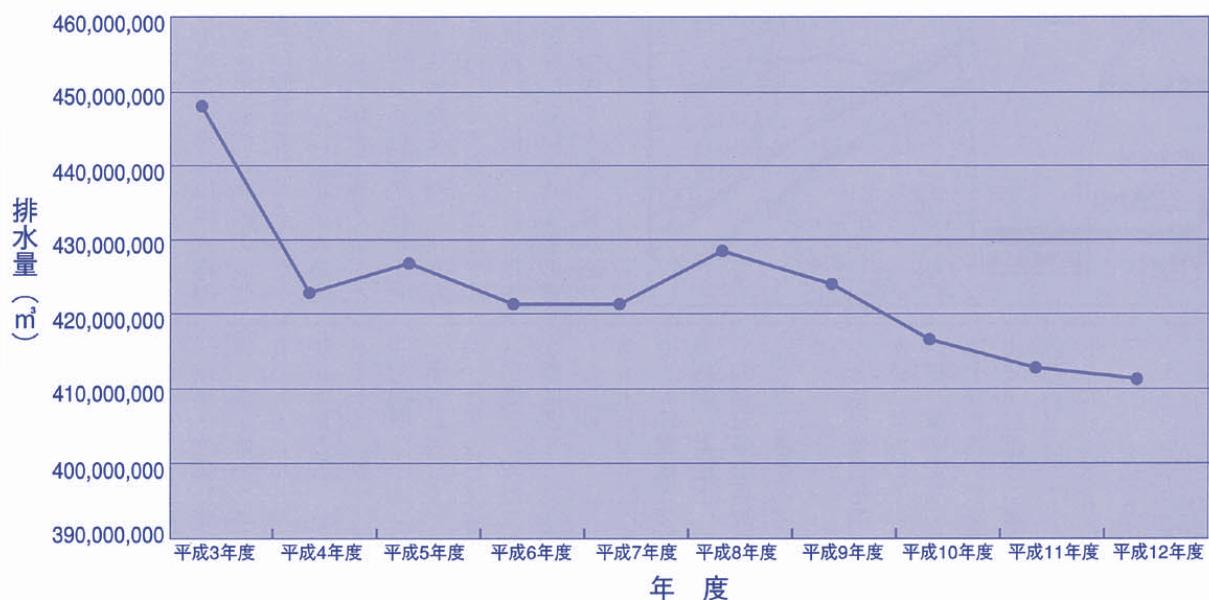
市政十一外

名事業所において、新入社員又は部署の異動に伴う社内研修の際に、岳南排水路に係る説明を必要とする場合には、当管理組合職員を派遣等しますので、ご相談ください。

社員研修に
岳掛職員を
派遣します

平成12年度の 「岳南排水路の水量」公表

前年対比 減少傾く



平成12年度 路線別排水量



岳南排水路留保排水量一覽表 平成13年11月1日現在

路線別	工場数		計画許可排水量		現許可排水量		留保排水量		留保率 (%)
	使用許可	休止	m3/秒	m3/日	m3/秒	m3/日	m3/秒	m3/日	
1号(富士宮)	12	1	1.3659	118,017	1.2046	104,078	0.1613	13,939	11.81%
1号(鷹岡)	30	1	2.3728	205,007	2.3728	205,007	0	0	0.00%
1号(南部)	22	0	2.1581	186,567	1.8189	157,138	0.3392	29,429	15.77%
1号計	64	2	5.8968	509,591	5.3963	466,223	0.5005	43,368	8.51%
2号計	26	4	3.0934	267,252	2.5045	216,377	0.5889	50,875	19.04%
3号A	8	0	1.7789	153,695	1.6273	140,596	0.1516	13,099	8.52%
3号B	8	0	3.1788	274,640	3.0561	264,042	0.1227	10,598	3.86%
3号計	16	0	4.9577	428,335	4.6834	404,638	0.2743	23,697	5.53%
4号計	3	0	2.5116	217,001	2.5116	217,001	0	0	0.00%
5号計	5	0	4.4330	383,008	4.4330	383,008	0	0	0.00%
合計	114	6	20.8925	1,805,187	19.5288	1,687,247	1.3637	117,940	6.53%

平成十二年度（平成十二年三月より平成十三年二月まで）の「岳南排水路の水量」がまとまりました。まとめによると、年間総排水量は、約四億一千百九八万立方メートルで、前年度に比較し、約二百七三万立方メートル、率にして〇・七パーント余りが減少しました。この減少傾向は平成三年度から引き続いており、一時期僅かな増量を示した時もありましたが、平成四年度以降低水準で推移しており、平成十二年度は過去最低だった昭和五十六年度を割り込む結果となりました。この低水準となつた要因としては、景気の不透明感が長引く中で、一工場が廃止したことによるほか、生産量の減少と技術革新による省資源対策、排水の再利用などが考えられます。

各管路の留保排水量の現況

岳南排水路の使用工場は、十一月一日現在で昨年と比較すると、三工場減少し、全体で百十四工場となっています。現在の許可排水量は日量換算値で一、六八七、二四七立方メートルとなっていますが、昨年同月との比較では一三、六〇〇立方メートル余りの減となっております。

これにより、留保排水量は一二三、六〇〇立方メートル余りの増となり、留保排水量は一一七、九四〇立方メートルとなっています。また、計画許可排水量との比較で見た留保率では六・五三パーセントを占める結果となりました。各ブロックの留保排水量の保有状況を見ると、差異が見られます。が、より安定した財源確保の観点からも留保排水量を可能な限り、使用者の要望に対応できる新たな再配分の方策について検討することが急務となっています。

各管路の留保排水量の現況

流下能力対策事業
一順調に進捗—

一・事業計画の理由

岳南一号第一排水路は、富士市泉町から富士市の中心部を通過し、田子の浦港に注ぐ管路であります。

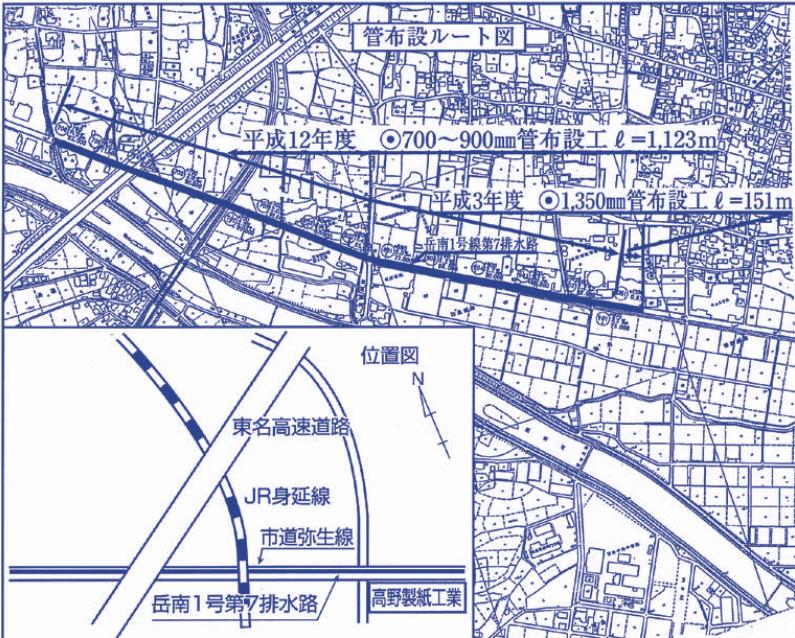
富士市伝法から久沢地先の市道弥生線に埋設された区間においては管渠の流下能力四・一八二〇立方メートル/秒に対し、計画排水量が四・一八二〇立方メートル/秒に対応する。

そこで、伝法地先の高崎三興(株)富士工場で終点となっている既設の岳南一号第七排水路を、第一排水路と並行して市道弥生線を西へ延長し、伝法、久沢地先に散在している八工場の排水放流先を第一排水路か

メートル/秒と計画排水量が一五パーセント～二五パーセントの超過となつております。この流下能力不足に起因するマンホールからの道路上への発泡、あるいは大雨時の排水の溢流等事故の発生が長い間懸案となってきた。

二・事業の効果

岳南一号第一排水路の現状は、流下能力四・一八二〇立方メートル/秒に対し、計画排水量が四・八三九八立方メートル/秒～五・二二一立方メートル/秒と計画排水量が超過していますが、岳南一号第七排水路管路新設後、八工場分が減量され、計画排水量は四・一八〇〇立方メートル/秒～四・三三二六立方メートル/秒と約一五パーセントの減量となります。その結果、道路上への発泡、排水の溢流等の事故を防止することができると思っております。



近年、下水道全体が本格的な維持管理の時代に入つており、損傷施設を更生し、社会資本としての下水道施設の機能回復を図ることが要求されるようになります。この対策の一つとして管渠更生工法と総称される更生材を既設管の内面に圧着し更生させる方法があります。北海道釧路沖地震、記憶に新しい阪神淡路大地震と大きな地震災害が発生してきましたが、これらは地震で管渠更生工法で施工された管路が地盤変動の中でも、その管渠のもつとも大切な流下機能保持に大変効果があつたという報告がなされております。

これらは施工時には、非開削であるため工期が短く経済的かつ交通渋滞など社会活動への影響が少ないという利点があります。

このいくつかある管渠更生工法のうち、管理組合で施工実績のあるのがINS(イン



老朽化対策事業
新規採用工法紹介

シチューフォーム工法、ICO-P工法、SPR工法の三工法であります。前二工法は袋状のものを水、または空気で膨らませながら管内に引き込み、これを熱硬化させて形成するというものであります。

後者の工法はスパイラル形状の帯板を管内面にあてがう形で管体を形成し、既設管の隙間に裏込(充填)材を注入するという工法であります。

◇廃止事業所 (同年九月二十日付け)

*今泉紙業(株)

*トーセン(株)富士宮工場

*豊年製紙(株)伝法工場(前大宮製紙(株)伝法事業所)

*天間製紙(株)天間工場 工場長 川田悦男(前取締役工場長 渡辺倍和)

*天間製紙(株)長沢工場 取締役工場長 田辺定芳(前取締役工場長 戸上壯洋)

*新富士製紙(株)第一工場 代表取締役工場長 伊藤俊武(前常務取締役工場長 平野岩夫)

*高崎三興(株)富士工場 工場長 白澤紳児(前工場長 三橋幹雄)

*森永乳業(株)富士工場 工場長 南健士(前工場長 中島篤)

して経済性が高く評価できる点であります。今後、五日間での施工延長がどこまで可能かを見極めることが必要となつてきます。

使 用 者 の 動 き

平成十三年四月一日から同年十月一日までに、管理組合が受け付けた代表者等の変更は、次のとおり。(敬称略)

この三工法も管の口径、損傷程度または施工条件などによつて使い分けられます。このうち、SPR工法は今年、初めて採用した工法ですが、千八百ミリメートルという大口径の管渠を昼夜兼行の五日間で六十五・六メートルを施工した実績がなく、業者でも到底、無理であるとしてきました。施工業者は最も実績のある業者であつたためが成功裏に終わり、この口径でも百メートル以上の施工が可能という自信につながりました。

この工法は管径が若干、小さくなりますが、管内面が滑らかになるため、表面の粗さの程度を表す粗度係数が小さくなるため流量は同等以上となります。

このことにより流下能力が不足している第四排水路に余裕ができ、将来の排水量の増量に対応できるとともに、管路も適切な維持管理ができることがあります。(第

四排水路の流下能力は、〇・七二六四立方メートル/秒)

この工法の最もユニークなのは円形、馬蹄形、矩形それに、曲線管路にも適応し、経費的に他の二工法に比較